

平成 16 年度「特色ある大学教育支援プログラム」

採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	津田塾大学	整理番号	1-2-062
応募テーマ	主として教育課程の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	発展し続ける英語教育プログラム － ボーダレス時代の多様なニーズに応じて －		
申請単位	大学全体		
申請担当者	田近 裕子		
<p>(取組の概要)</p> <p>ボーダレス化が急速に進む国際社会では、高い専門性を備え、英語に堪能であることが、優れた人材の主要な要件となる。本取組は、全学的（英文学科、国際関係学科、情報数理科学科）に、内容重視の英語授業を、4技能(listening, speaking, reading, writing)のバランスを重視して行う英語教育プログラムである。英語運用スキルと高度な専門性の融合を図り、学習意欲を高め、学生のニーズに応える、内容豊かな教材を開発してきた。それにより、国際的視野を持ち、IT化の進む時代に即応した発信力を身につけた人材を育成することができる。</p> <p>この取組の主な特色は次の4点である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 視聴覚リソースを用いた多彩な内容の授業 2. 3, 4年次の多様なニーズに応える英語演習の授業 3. 体系的に書く訓練により発信力を培う授業 4. 英語を通して高度な専門性を培う授業 <p>本取組は、学生のさまざまなレベルや必要性に応じることのできる汎用性を有しており、広く多様な学習者に適用しうるものである。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>この取組は、津田塾大学の教育目標である「学生の自主性の尊重、少人数教育、専門性と幅広い教養の融合、国際性」を達成するために、既に10年以上にわたって組織的・継続的に実施され、留学経験者、英語による卒論、大学院への進学などに実証されるように大きな成果を上げています。</p> <p>現在、大学には、社会・経済・産業構造の急激な変化に対応できる特色ある教育が求められています。この取組には、顕著な新規性や特色は見られないものの、1年次から4年次まで内容重視の真摯な授業展開とそれを可能にする内容豊かな教材開発に重点をおき、まさしく英語の津田塾大学としての面目躍如と認められます。また、この取組には、有効性の評価が不十分であるという課題も認められますが、これを克服すれば、一層他の大学の参考にもなり得、更なる発展が期待されます。以上の点を鑑み、この取組は非常に優れた事例であると言えます。</p>			